

そば栽培のポイント

令和8年7月1日

上越農業普及指導センター



は種までのスケジュール

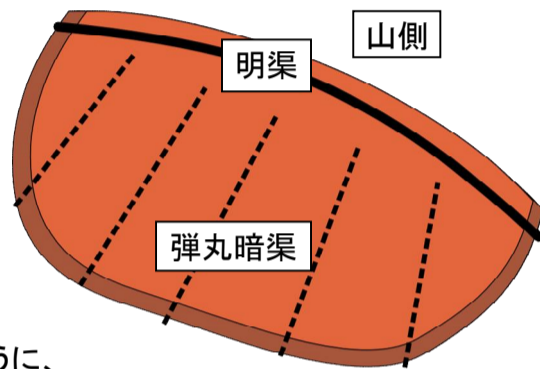
作業時期	作業内容	留意点
7月中旬～7月下旬	周囲明渠の設置	地表水は半日以内に排水
	石灰と資材の散布 除草	は種前一週間以前に実施 ほ場内の雑草を処理
7月下旬～8月上旬	耕起・畦立て・施肥・は種 ほ場内排水溝の設置	専用機による同時作業(条播) 動力散布機による散布(散播) 周囲明渠と接続



排水対策～は種

(1) 排水対策

- そばは湿害に極めて弱い作物です。降雨後の地表水が半日以内でなくなるように排水対策を実施しましょう。
- 山側の斜面からの水がそば畑に入り込まないように、明渠を設置しましょう。
- また、斜面の下側から上側に向かって弾丸暗渠を入れると、さらに排水がよくなります。
- 畦の一部を切り、明渠を流れた排水が、ほ場外に流れるように溝を掘りましょう。



(2) 施肥

ア 石灰散布

- 土壌pHを6.0～6.5程度に補正します。標準散布量は消石灰で10a当たり60～80kg程度とします。

イ 肥料散布

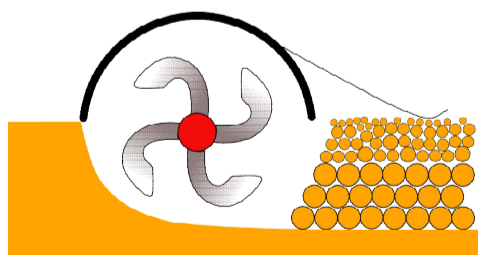
○標準的な施肥量(成分 kg/10a 当たり)

窒素	リン酸	加里
2～3kg	4～8kg	5～10kg

- 施肥量は地力や前作の残効に応じて調整してください。
- リン酸、加里は必ず施用し、連作ほ場ではたい肥を施用しましょう。
- 条施肥する場合は、発芽障害を防ぐために肥料が種子の下方の場合は3cm以上、横の場合は5cm以上離して窒素量は控えめにしましょう。

(3) 耕起・碎土・整地

- 出芽を高めるため碎土率(2cm以下の土塊比率)を70%以上、透水性や収量の向上のため耕深は15cmを目標とします。
- ほ場は十分乾燥させ、ゆっくり耕うんしましょう。



※アップカットロータリーを用いると細かい土が表層に多くなる。

(4) は種

- m²当たり100～120本の苗立数を確保します。

ア は種時期

	標高 200m 以下	標高 200～400m	標高 400～600m
とよむすめ	8月上旬	7月下旬～8月上旬	7月下旬
信濃1号	8月上～中旬	7月下旬～8月上旬	7月下旬

イ は種量

条播: 5kg/10a 程度

条間 30cm 程度、まき幅 3cm(ドリル撒き)、
覆土 2～3cm 程度としましょう。

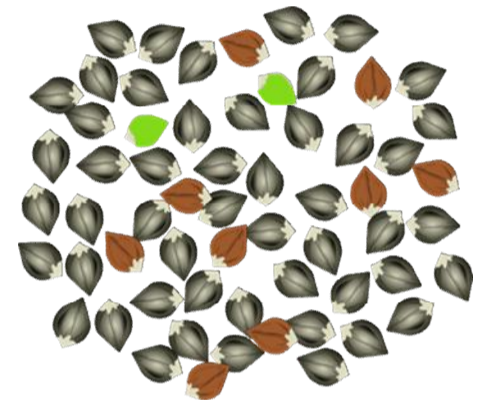
散播: 7～8kg/10a 程度

は種後、ロータリやレーキで深さ 5cm 以内に浅く
混和しましょう。



収穫適期・刈取り

- そばの開花期間は30日位で、1粒1粒の成熟は同じではありません。収穫適期は、子実の黒化率(子実全体のうち黒くなった粒の割合)で判断します。
- コンバイン収穫では、成熟期(黒化率 70～80%)頃が収穫適期です。刈取りは晴天の日中に行うようにし、低速・低回転でいねいに行いましょう。



◎ 収穫適期の判断

黒化率の判定は最長花房(一番上の房)で判定する。

最長花房(一番上の房)黒化率が70～80%の頃、全体の黒化率も70～80%と判断する。

- そばの子実が収穫適期に達していても、落葉が遅れている場合はコンバイン収穫時に脱穀部の詰まりや選別不良を起こすことがあるので注意が必要です。
- コンバイン収穫したそばはムレやすいので、できるだけ早く乾燥作業に移りましょう。



乾燥・調製

(1) 乾燥

ア 平型乾燥機の場合

- 送風温度 30℃以下で乾燥を行い、乾燥の均一化を図るために乾燥途中で攪拌しましょう。

イ 循環型乾燥機の場合

- 収穫されたそばに茎などのごみが多いと、循環不良が起こりやすいので、粗選機を用いて荒選後、乾燥機に投入しましょう。
- 穀粒が硬くなる水分(20%程度)までは、通風乾燥し、それ以降は、通常の連続循環方式で乾燥しましょう。
- 火力乾燥するときの乾燥温度は、そばの品質を落とさない 35℃(穀温 30℃程度)以下にしましょう。
- 仕上げ水分は 16%としましょう。

(2) 調製

- 黒化率 70～80%頃に収穫したそばは、収量が高く、香りに優れる一方で、未熟粒の混入が多くなりやすいので、選別調製を丁寧に行いましょう。
- 調製は、唐箕とライスグレーダーを使用して整粒歩合 75%以上に仕上げましょう。